



2026年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年8月13日

東

上場会社名 株式会社Sapeet

上場取引所

コード番号 269A

URL <http://sapeet.com/>

代表者（役職名） 代表取締役社長

（氏名） 築山 英治

問合せ先責任者（役職名） 取締役
経営管理本部長

（氏名） 佐藤 琢治

（TEL） 03(6822) 3263

配当支払開始予定日

—

決算補足説明資料作成の有無

: 有

決算説明会開催の有無

: 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年9月期第3四半期の業績（2025年10月1日～2026年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期第3四半期	1,354	94.2	140	656.7	141	—	154	—
2025年9月期第3四半期	697	54.8	18	—	8	—	7	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期第3四半期	95.92	92.53
2025年9月期第3四半期	5.05	4.80

（注）当社は2024年10月27日に東京証券取引所グロース市場に上場したため、2025年9月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から2025年9月期第3四半期の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期第3四半期	895	687	76.7
2025年9月期	597	498	83.4

（参考）自己資本 2026年9月期第3四半期 687百万円 2025年9月期 498百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年9月期	—	0.00	—	—	—
2026年9月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年9月期の業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,830	83.7	120	118.2	121	168.9	132	88.6	82.75

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年9月期3Q	1,637,100株	2025年9月期	1,577,100株
2026年9月期3Q	0株	2025年9月期	0株
2026年9月期3Q	1,609,188株	2025年9月期3Q	1,552,636株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨ではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等は、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第3四半期累計期間	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景とした賃金と物価の好循環が着実に浸透し、個人消費の底堅さが維持される中で、緩やかな回復基調が続きました。一方で、日銀の金融政策修正に伴う金利上昇局面への移行により、企業の資金調達環境のみならず、住宅ローン金利の上昇などを通じて家計の購買力や個人消費の動向にも慎重な見方が広がるなど、経済全体に新たな影響が及んでおります。これに加え、緊迫する中東情勢に起因する原油・エネルギー価格の高騰や、為替相場の変動によるコスト増が、景気の先行きに不透明感を与えております。また、労働市場においては、生産年齢人口の減少に伴う人手不足が一段と深刻化しており、持続的な賃上げへの対応と、限られた人的資源を補完する省力化投資が、日本経済全体の喫緊の課題として定着いたしました。

当社が属するAIシステム関連市場は、前述したような構造的な労働力不足を背景に、単なる「効率化」を超えた「労働力の代替と補完」を目的とする投資も加速し、市場全体として極めて高い成長性を示しております。例えば、国内AIシステム市場においては、2024年の1兆3,412億円から2029年には4兆1,873億円へと大幅な拡大が見込まれておりますが（出典：IDC Japan 株式会社「国内AIシステム市場予測、2024年～2029年」）、前事業年度から引続き、特に生成AI（Generative AI）の社会実装が本格化しております。実証実験（PoC）は引続き増加しつつも、企業の基幹業務プロセスへの組み込みや、AIエージェントによる業務自律化など、直接的な収益貢献やビジネスモデルの変革に直結する導入事例が急増しております。加えて、熟練者の技術や知見といった「暗黙知」をAIによって「形式知」へ変換・継承する動きは、製造業や建設業のみならず多様な業種へと広がりを見せており、AIソリューションは企業の持続可能性を支える不可欠なインフラとしての地位を確立いたしました。

このような環境下、当社は「ひとを科学し、寄り添いをつくる」のミッションの下、AI技術やその他の先端技術を活用して、Expert AI事業として独自のAIソリューション・AIプロダクトを提供しております。AIソリューションにおいては既存取引先との継続的な取り組みや更なる拡大（PoCから本開発への移行や、社内での横展開等）、各種アルゴリズムや生成AIを用いた新規案件獲得に注力しております。AIプロダクトにおいては「シセイカルテ」「マルチカルテ」といった既存サービスに加えて、AIソリューションで実績のあるAIロープレをSaaS型のサービスとした「SAPIロープレ（旧：カルティロープレ）」の拡販を進めております。今後の事業拡大に向けた戦略的投資を実行しており、例えば急拡大しているAIエージェントを含む生成AI活用領域への投資、新たなAIプロダクト創出等があります。また、成長市場における認知度向上のためのマーケティング及び今後の事業拡大の源泉となる人材獲得等に注力いたしました。

これらの結果、当第3四半期累計期間における当社の経営成績は以下のとおりとなりました。

売上高については、AIソリューションにおける既存プロジェクトの進捗・拡大や生成AIやAIエージェント関連の新規プロジェクト獲得、AIプロダクトにおける「シセイカルテ」「マルチカルテ」のアカウント数の増加や「SAPIロープレ」の拡販により1,354,014千円（前年同期比94.2%増）となりました。特にAIソリューションにおいては、東京証券取引所グロース市場への上場による認知度向上及び信用力の向上や、AIシステム関連の市場拡大の流れが引き続き追い風となり高い成長を実現しました。

売上原価については、個別案件を通じた戦略的投資やAIソリューションの急激な事業拡大によるリソース確保のための労務費及び業務委託費の増加等により、733,701千円（前年同期比110.6%増）となりました。なお、AIソリューションにおいては、将来の取引拡大が見込まれる案件や、AIエージェントを中心とした当社の注力領域の案件について戦略的な提案を継続して行っており、この取り組みが労務費及び業務委託費の増加の一因となっております。

売上総利益については、上記のとおり、大きく増収となった一方で、戦略的投資やリソース拡充に伴う労務費及び業務委託費の増加により、620,312千円（前年同期比77.7%増）となりました。

販売費及び一般管理費については、引続き事業拡大のための先行投資として主に人材採用や研究開発を強化したことにより、479,431千円（前年同期比45.1%増）となりました。

営業利益については、事業拡大に向けた投資を継続しながらも、大幅な増収に伴い固定費が効率的に吸収され、140,881千円（前年同期比656.7%増）となりました。当社は中長期的な会社成長を最優先課題としており、一定の利益は確保しつつも、人材採用、ブランディング、研究開発及びセキュリティ強化といった投資を積極的に行っております。

上記の結果、経常利益は、141,283千円（前年同期比1,618.9%増）、四半期純利益は154,349千円（前年同期比1,864.9%増）となり、中長期的な成長に向けた先行投資を継続しつつも、一定の利益を確保しております。

なお、当社はExpert AI事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は895,685千円となり、前事業年度末に比べ297,976千円増加いたしました。これは主に、流動資産においては、大規模な請負案件の入金により現金及び預金が121,237千円増加したこと、売上高の増加により売掛金が113,919千円増加したことによるものであります。固定資産においては、AIプロダクト開発の進捗によるソフトウェアの資産計上により無形固定資産が25,493千円増加したこと、予定しているオフィスの増床に伴い敷金を差し入れたことにより投資その他の資産が49,503千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は208,547千円となり、前事業年度末に比べ109,126千円増加いたしました。これは主に、売上高の増加に伴う業務委託費にかかる買掛金が54,304千円、将来の売上として計上されるAIプロダクトの入金により契約負債が12,345千円それぞれ増加したほか、事業拡大に伴う採用活動費の増加により未払金が22,842千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は687,137千円となり、前事業年度末に比べ188,849千円増加いたしました。これは、新株予約権の行使による資本金17,272千円及び資本準備金17,272千円の増加、並びに四半期純利益154,349千円の計上によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の業績予想につきましては、2026年8月13日に発表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	213,327	334,565
売掛金	122,163	236,082
契約資産	37,565	8,781
前渡金	—	2,942
前払費用	19,727	25,185
未収入金	139	367
その他	143	1,019
貸倒引当金	△15,443	△15,245
流動資産合計	377,622	593,699
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	12,698	12,698
減価償却累計額	△1,570	△2,233
建物附属設備（純額）	11,128	10,465
工具、器具及び備品	12,903	23,723
減価償却累計額	△3,386	△6,476
工具、器具及び備品（純額）	9,516	17,247
その他	219	54
有形固定資産合計	20,864	27,768
無形固定資産		
ソフトウェア	140,261	168,857
ソフトウェア仮勘定	6,666	3,564
無形固定資産合計	146,927	172,421
投資その他の資産		
敷金	23,462	59,466
繰延税金資産	28,830	42,330
投資その他の資産合計	52,292	101,796
固定資産合計	220,085	301,986
資産合計	597,708	895,685

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	34,608	88,912
未払金	17,217	40,060
未払費用	8,499	13,535
未払法人税等	530	398
未払消費税等	23,680	35,677
契約負債	6,856	19,201
預り金	8,028	10,762
流動負債合計	99,420	208,547
負債合計	99,420	208,547
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	27,272
資本剰余金		
資本準備金	362,350	379,623
その他資本剰余金	352,852	352,852
資本剰余金合計	715,202	732,475
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△226,997	△72,647
利益剰余金合計	△226,997	△72,647
株主資本合計	498,204	687,099
新株予約権	83	38
純資産合計	498,288	687,137
負債純資産合計	597,708	895,685

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
売上高	697,384	1,354,014
売上原価	348,328	733,701
売上総利益	349,055	620,312
販売費及び一般管理費	330,438	479,431
営業利益	18,617	140,881
営業外収益		
受取利息	138	236
雑収入	690	683
営業外収益合計	829	920
営業外費用		
支払利息	584	—
株式交付費	2,821	120
上場関連費用	7,430	—
為替差損	60	396
雑損失	330	—
営業外費用合計	11,227	517
経常利益	8,219	141,283
税引前四半期純利益	8,219	141,283
法人税、住民税及び事業税	363	434
法人税等調整額	—	△13,500
法人税等合計	363	△13,065
四半期純利益	7,855	154,349

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

前第3四半期累計期間(自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)

当社の事業セグメントは、Expert AI事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期累計期間(自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)

当社の事業セグメントは、Expert AI事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係るキャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間にかかる減価償却費は次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	20,049千円	33,597千円